

スペインサッカー留学を振り返って

長野大学 代表 設楽武秀

～スペイン留学へのキッカケ～

私は1月5日～2月4日の約1ヶ月間を使ってスペインサッカー留学をしてきました。場所はバレンシアの中のアルヒネットという小さな町を訪れました。バレンシア空港から車で約1時間のところにあります。スペインでの生活を送りながらサッカーの練習を経験させていただきました。

そもそも私がスペインを訪れてみたいと強く思っていたキッカケは、小学校のときにメッシがバルセロナで活躍していた試合をテレビで見たからです。特にスペインのパスサッカーには魅了されました。小学校、中学校、高校、大学とサッカーを続けてきた私にとって、高校2年生のときがターニングポイントでした。サッカーに対して強い思いがある監督に出会い指導して頂けたことによって、そのとき、サッカーは「楽しければいい」という考え方が「勝負にこだわる」という考え方が変わる瞬間でした。サッカーに対する姿勢が変わってから、益々スペインを訪れたいという気持ちが高まって、ついに大学在学中にインターネットでスペイン留学に申込みました。

スペインに行く前まではスペイン語を覚えることに専念し、現地でのイメージを膨らませていました。去年、私はデフサッカー、及びデフフットサル日本代表としてアジア大会に出場してきました。その大会で優勝できなかった悔しさから、私たち日本代表のレベルアップに繋げるため、日本人チームの一員として自分の力を伸ばしたいという練習に対する思いを高めていました。

～スペインで感じたこと～

スペインに到着して、はじめにスペインリーグ6部のサッカーチームと約8日間練習しました。チームプレーはバルサのようなパスサッカーとは掛け離れていて、個人のスピードやフィジカルを活用した戦い方のように感じました。また、バレンシア州1部のフットサルチームと約8日間練習しました。以前練習したサッカーチームに比べて、戦術の確認が多く組織としての戦い方にこだわりのあるプレースタイルでした。さらに、サッカーの選手より、フットサルの選手は体型がとても小さい選手が多く、足元の技術が巧妙でした。両方の練習を参加して、私の身体能力は高くないと痛感することが多くありましたが、試合中での状況判断を意識してよりベストなプレーを選択するように工夫できていたと思います。

もう1つ人生の中で良い経験をしたと思うことは、人と人とのコミュニケーションです。現地ではバレンシア語が主に使われており、私が勉強していたスペイン語とは異なる言語のようです。日本で例えるとするなら関西弁でした。そのため、スペイン語の勉強をして

いる感覚にならず、また、英語の勉強をして来なかったというものもあり、スペイン人とのコミュニケーションに苦勞がありました。そこで、私はジェスチャーを使ってコミュニケーションを積極的に取るようにし、耳が悪くても、言葉で上手く伝えられなくても、ボールのパスやジェスチャーで意思伝達に専念していくことができました。聴覚障害者は声によるコミュニケーションがうまく取れないけれど、積極的な身振りや手振りなどの方法で考えの共有ができると実感する瞬間で凄く嬉しかったです。

～これからは～

最後に、このサッカー留学での経験を活かし、日本でも一回一回のトレーニングを大事にしていきたいと思います。今年の10月にはデフリンピック予選アジアサッカー大会があります。さらに今年の11月にはフットサルの世界大会がありますので、それぞれの局面で絶対にチャンピオンを勝ち取る気持ちで日々精進していきたいと思います。私は今年から社会人になります。会社で働きますが、時間の使い方を工夫していくことを心掛けサッカーやフットサルへの練習に参加していけたらと思っています。また、聴覚障害者への理解をさらに深めていくためにスペインでの異文化コミュニケーションの経験を活かし、どんな人に対しても積極的に関わって更なる夢を掴み取っていきたいです。



宿泊したところ（見た目マンション）



バレンシア VS アルメリア（メスタージャスタジアム）



バルセロナ VS バレンシア (カンプノウ)



フットサル



渡航前見送りに来てくれたロベルト佐藤さん（松本山雅の反町監督と J リーグが無かった時代同じチームでサッカーしていた方）